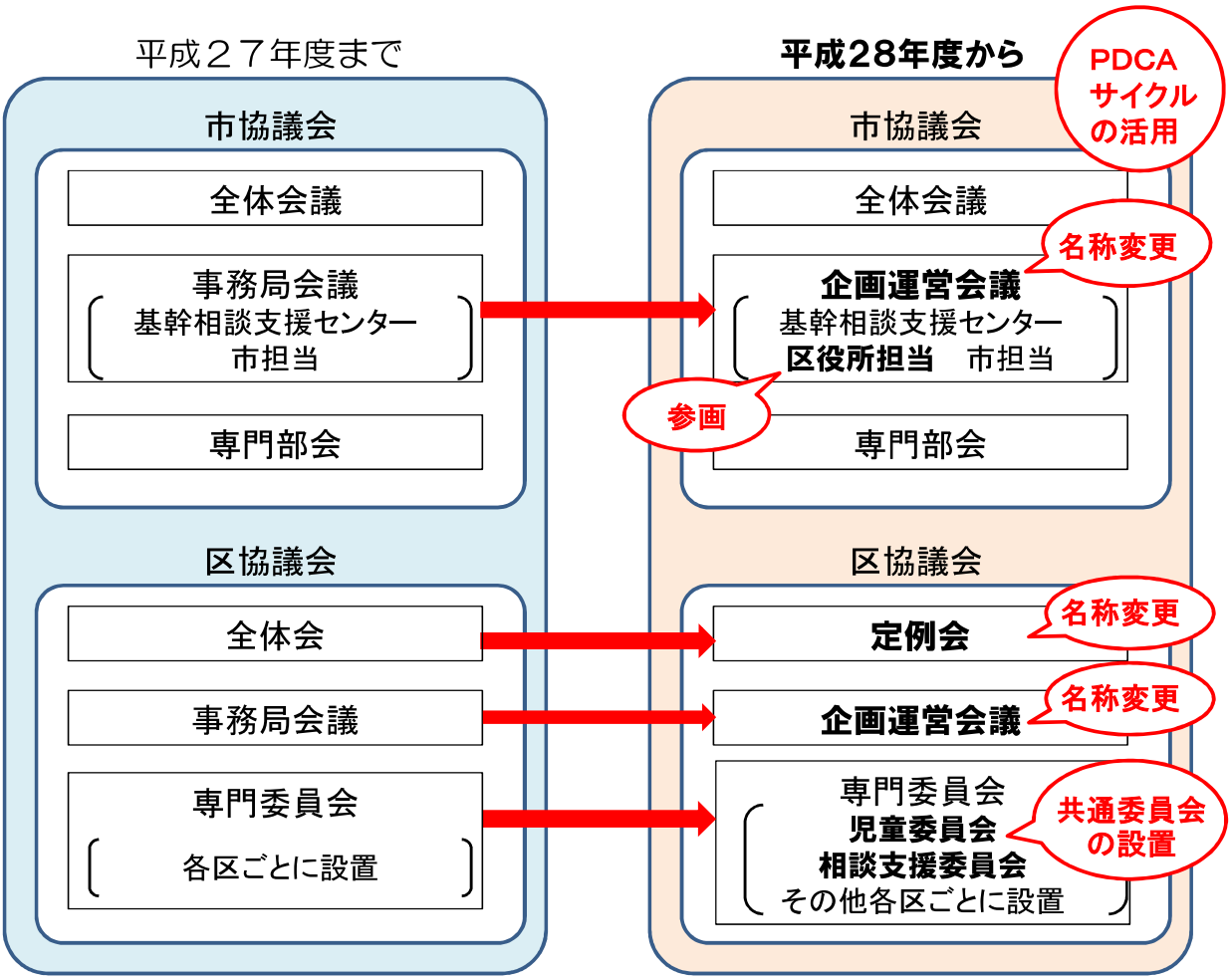
資料２－１

平成２８年度の体制変更について

川崎市地域自立支援協議会



市協議会企画運営会議
～基幹相談支援センターと区役所担当の協働～

- 情報共有が図りやすくなった。
- 議論がより活発になった。
- 協議会の運営に一体感が生まれた。
- 各区間の連携が強化された。

一緒に考える仲間がいるということが、
地域づくりの第一歩。

資料２－２

目標の達成にむけて

川崎市地域自立支援協議会

川崎市地域自立支援協議会目標

★長期目標★

協議会の活性化に向けた仕組みをつくる。

★短期目標★

運営の手引きにおける課題抽出・管理・取り組みのプロセスを理解、活用する。

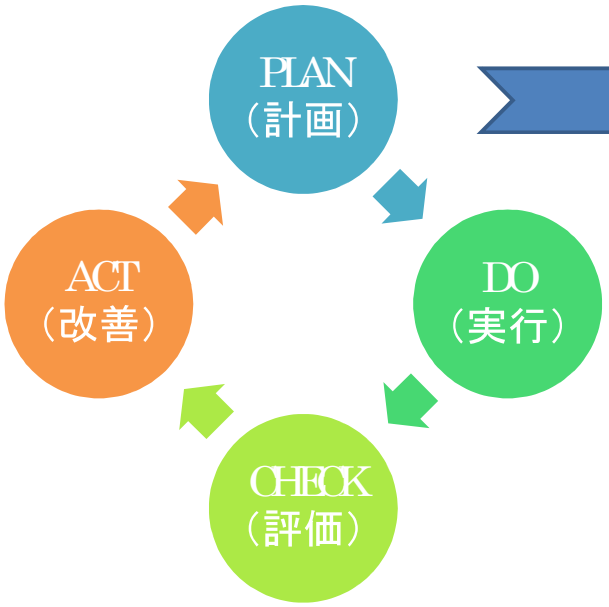
短期目標を達成するために、具体的に何をするかわからないという話に･･･。

SWOT分析を始めた発端

・川崎市地域自立支援協議会の企画運営会議で何をやっていったらいいのだろう？
・そもそも、川崎市地域自立支援協議会の課題ってどんなところにあるのかな？
など

川崎市地域自立支援協議会を短期目標を達成する上で、スケジュールが必要！

そもそも、SWOT分析って・・・。



SWOT分析は…アセスメントの部分

SWOT分析という手法を用いて、課題を明確にする。

⇩

SWOT分析をまずは少数人数で実施。

⇩

結果、川崎市地域自立支援協議会企画運営会議構成員の全員でやったほうがいいということになった。

実際にSWOT分析をやってみた！

～6・7月に、2グループに分かれて、SWOT分析を行う～

まとめ

	機会 市共通の業務マニュアルができている。 協議会の手引きができている。 協議会がある。 就労支援事業所が増えている。 等	脅威 業務量が増えている。 協議会の理解度が進んでいない。 計画相談が進まない。 等
強み 若い世代が多い(南部) 政令指定都市 人口増加率が高い 都市の知名度がある。 施設や病院が多い 駅のバリアフリー化が進んでいる。 等	・専門機関が多く、協議会にも参加している。 ・支援センターが整備されており、市共通の業務マニュアルがある。 ・就労事業所が増え、就労の選択の幅が広がっている。	・障害児福祉サービスが充実していて、サービス利用者が増えていることで業務が増えている。 ・相談支援センターが増えた一方、業務バランスがとりずらい。 ・都市の知名度はあるが、協議会の理解度は進んでいない。 等
弱み 人口が多く、対象ケースの把握をしきれない 短期入所の枠が少ない 入所施設が少ない 福祉制度があるがヘルパーが少ない。 事業所がない。 指定特定事業所の不足　等	・短期入所や入所施設の枠が少ないが大きな規模の社会福祉法人はある。 ・ヘルパー事業所に「障害は難しい」というイメージが聞かれるが、リハセンの整備で、他職種の連携は進んでいる。 ・指定特定事業所が不足しているが、就労に関するサービス事業所が増え、選択肢が増えている。	・指定特定事業所が不足していることで、計画相談に追われ、圧迫している。 ・生活情報が溢れているが、必要な情報を協議会も含めて発信できていない。 ・共助が脆弱のため、サービスに依存してしまう。 ・サービスの担い手が少ないので、協議会の参加率も悪く、モチベーションが低い。　等

弱み×脅威から見えてきた問題

・指定特定事業所が不足していることで、計画相談に追われ、圧迫している。

・生活情報が溢れているが、必要な情報を協議会も含めて発信できていない。

・共助が脆弱のため、サービスに依存してしまう。

・サービスの担い手が少ないので、協議会の参加率も悪く、モチベーションが低い。

等…

SWOT分析から出てきた課題

1. 現在の業務内容を可視化し、それぞれの求められている業務役割を遂行する。

2. 受けて、送り手にも使いやすい情報を整理する。

3. 互助

4. サービスの担い手が少ない。

今後の予定

課題が明確化したので、PLAN（計画）を作成している段階

今年度については、

1. 現在の業務内容を可視化し、それぞれの求められている業務役割を遂行する。

2. 受けて、送り手にも使いやすい情報を整理する。

を取り組む予定です。

資料２－３

平成２８年度　第２回 川崎市地域自立支援協議会 全体会資料

平成28年度　市協議会
課題整理ワーキング報告

報告者：　みやまえ基幹相談支援センター
野原

１、年度当初に設定した取り組み内容

① 各区協議会課題整理WGの進捗状況把握や
取り組み方について共有

② 区協議会から提出を受けた課題の精査

③ 市協議会として協議検討すべき課題の解決方法検討

④「市協議会運営の手引きVer2」で設定した課題整理に関する
書式の使い勝手の確認。

2、検討状況について

第1回 平成28年6月15日	・各区協議会での課題整理の現状について確認 ・「市協議会運営の手引きVer2」で設定した課題整理の流れについて各区担当者と共有 ・共通書式（個別課題提出票・課題管理一覧表等）について確認 ・優先して取り組む検討事項について検討
第2回 平成28年8月1日	・各区協議会の課題整理の進捗状況や年度末までの予定について確認
第3回 平成28年10月3日	・各区協議会の課題管理一覧表の確認 ・各区協議会の課題整理の進捗状況の確認

3、各区協議会の課題整理WGの取り組みから判明してきた事柄（課題整理の流れ）

◎課題整理の流れについて

～効果が見られた点～

・そもそも、課題整理の仕方に各区協議会で差異があったので、課題整理の<u>標準化を意識して取り組める</u>ことは共通する課題を各区が取り組み易くなる。

・定期的に市協議会課題整理WGを開催し、各区の課題整理の進捗を共有することで各区の取組状況や課題整理の流れを参考にすることができている。

～支障を感じている事柄～

・課題整理の流れを企画運営メンバー間で共通理解を図っていくこと自体に時間を要した。具体的な課題を取り扱いながら、問題と課題を意識し、整理の流れについて確認を行っている。

3、各区協議会の課題整理WGの取り組みから判明してきた事柄（個別課題提出）

◎個別課題提出について

～支障を感じている事柄～

・随時、個別課題提出を受け付けても、提出がほとんどない。

・構成員全員に提出票を配布したが、記入する人の立場によって内容の視点が広いもの、浅いもの等があって整理が難しい。

～提出しやすくする工夫～

・定例会や学習会等で意見交換した際に出てきた個別課題を記載している。

・企画運営会議メンバーに1人1枚以上の提出を依頼している。

・企画運営会議メンバーが提出希望者に聞き取りをして記入を手伝う。

3、各区協議会の課題整理WGの取り組みから判明してきた事柄（書式：個別課題提出票）

◎書式（個別課題提出票）

～使い勝手～

・例題をみると、使いやすそうだが、実際に記入すると、*詰まってしまう・・。*

・1人で記入するのは、難しい。意見交換等で自分の困り事を相談支援の人が聞きだして(明確化）、記載をしてくれると、たくさん出したくなる。（当事者構成員から）

・課題提出票が管理一覧表と書式が違い、使い勝手が良くない。

・課題提出票の各項目と課題管理一覧表の各項目とが、関連づけられていない？　使い勝手が良くない。

３、各区協議会の課題整理WGの取り組みから判明してきた事柄（書式：課題管理一覧表）

◎書式（課題管理一覧表）

～活用開始後の使い勝手等～

- 課題の取り扱いの優先順位を設定する際の共通指標が手引きに記載している内容だけでは乏しい。他区が どのように判断しているかを　伝え合う・持ち帰る機会が欲しい。
- 各区の課題整理一覧表から　市協議会としての共通課題が見えるように、各課題を整理した結果を共通のキーワードから選択できるようにしてほしい。

４、今後の取り組みについて

- 各区協議会の課題整理の進捗状況の確認と共有
- 共通書式の修正
- その他
  市協議会企画運営会議で検討が必要となる課題の具体的な検討

資料２－４

平成２８年度
川崎市地域自立支援協議会連絡会について

平成２８年１１月７日（月）
第２回川崎市地域自立支援協議会全体会議

④連絡会
ア．連絡会の役割
・区協議会や専門部会で検討してきていることを市内全体で共有することにより、他の方が活動していることを知り、自分のところにも持ち帰り、かつ構成員以外の方にも発信します。
・研修形式（各構成員間の共通テーマ）

イ．連絡会の性質
　連絡会は協議会における課題の解決や改善に向けた手段の一つとして捉え、以下の２点の考え方を基本として実施します。
・区での検討や取り組みを経て提出された課題の中から、連絡会の開催によって課題の解決や改善につながると考えられるテーマを取り上げて実施する。
・他区の取り組みを知ることが自らの区のより良い取り組みへつながると考えられることから、各区の取り組み報告を実施する。
　区での検討や取り組みを経て提出された課題の中からテーマを取り上げるものについては、状況により必要に応じて開催し、特定の区の取り組みを全市に発表する場合には必要に応じて開催します。
　原則、協議会構成員以外の参加も認めるオープン型の開催とし、開催形式として、シンポジウム形式、意見の表出形式などが想定されますが、これまでの協議会周辺での議論の深まり具合などから、テーマによって効果が得られやすい手法を市企画運営会議で協議して決定します。

ウ．会議の企画担当
　企画は市企画運営会議から２名担当を割り振り＋市担当で構成

川崎市地域自立支援協議会運営の手引きVer.2より抜粋

第１回

自立支援協議会について

・平成２８年６月３日開催

・目的：

　地域自立支援協議会の役割を改めて学ぶ。それとともに２８年度からの川崎市地域自立支援協議会の新体制について再確認し、新体制下で円滑に活動に取り組めるようになる

・内容：

　自立支援協議会について

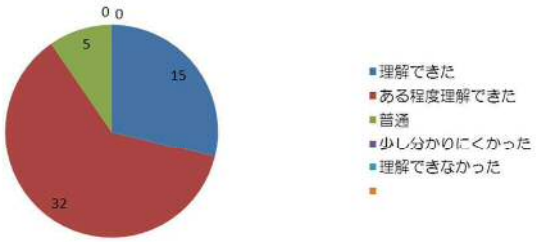
　（川崎市地域自立支援協議会　行實会長）

　川崎市地域自立支援協議会について

　（宮前区地域自立支援協議会　野原氏）

参加者からの意見

・講義内容



・人と人をつなげるために何ができるか。一人の力ではなくて、力を合わせて一緒に考えていく事・・時間はかかるけど、立ち止まることなく進めていく事が大切なんだなあと思いました。

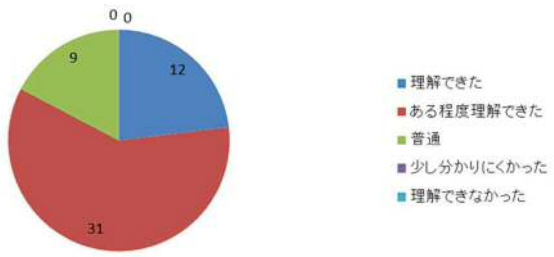
・よりよいまちづくりの為には「地道な顔の見える関係づくりの重要性」を実行できるように日々業務で意識していきたいです。

・地域の共通課題の考え方、課題化について概念としては整理できた。ただいざ具体的に協議会の中で課題抽出していくとなると、正直わかるようでわからない所もある。

・協議会運営の視点としてPCDAサイクルが出て来るが、問題の構造化の中で、問題放置の結果予想される悪い結果についても考える、ということがポイントであるという話しがとても響いた。

など

・川崎市地域自立支援協議会についての理解



・区、市各協議会のそれぞれの役割について理解できた。まず今年一年やってみてかなあと感じました。

・「形から入るのでなく、横のつながりができていければ活性化する」これをキーワードとして取り組んでいけば、うまく行くような気がします。

・障害の有無に関係なく、市民のためにあるもの、住みやすい町になっていくように私達が考えて作っていくことが大切なんだなあと思った。

など

・不明な点や疑問点等

・各々の思い、温度差があり調整に苦労します。

・課題を上げるばかりで解決への方向性が出てこない状態は延々と続くのでしょうか。

・市の協議会が区をとりまとめていく立場として、市としてどう運営へ連携をとっていくか具体的にお話しが聞けたらよかったなあと思いました。

など

・活動をよくするためのアイデア

・各区ごとの交流。

・今回のような勉強の機会が度々あるとよいと思います。

・構成員の方々とのコミュニケーション作りがまず第1歩と考えています。

・課題抽出→共通課題へと集約するための期間を一定ずつ区切ったほうが良いと思います。

成果、結果が見えてこない状況はモチベーションが下がります。

など

第２回

『熊本地震における支援活動報告から災害時の相談支援を考える』

～そのとき、相談支援はどうする～

・平成２８年８月１日開催

・目的：

　熊本地震で被災地支援を行った方々の報告を聞き、川崎市で発災したとき相談支援がどのように支援に取り組むか、考えるきっかけとする

・内容：

　熊本地震における支援活動報告

　（かながわ障がいケアマネジメント従事者ネットワーク　吉田氏）

　（百合丘障害者センター　塚田氏）

　意見交換

参加者からの意見

・講義内容

「熊本地震から見える災害時の障がい児者支援について～相談支援の視点から～」

・今できること、顔の見える関係が出来ていることの大切さが分かった。

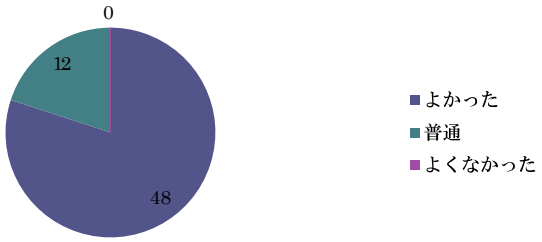
・日ごろからの関係機構や地域との関係性や、情報共有のシステム化をいかに図っているかであることがよくわかりました。

・100％でなくとも支援としての準備が大切だと思いました。私たち支援者も被災者になりうるので、どれだけの支援ができるのか疑問です。

・日常的にある困り感を知っておくことで初動が変わることで日々の連携の大切さを改めてしりました。基幹支援センターの在り方を考えさせられました。より地域への取り組みができるように色々変えなければならない所も多いなと思いました。

など

「川崎市社会福祉職等熊本市震災支援派遣報告～相談支援センター等との連携～」



・前回3.11の時も2次避難所のことについて、親御さんからご質問があったが、それから川崎が何も進んでいない感じを正直に言っていただいてよかった。

・川崎市としての問題の抽出からの課題を見つめ、考える機会を持てた。よって普段から取り組みも含めそれぞれの立場役割を踏まえ、協働できる体制の必要性を改めて感じた。

・万全の体制は難しくても意識できる機会作りは必要だと思いました。

・活動から得られた課題について「具体的に取り組んでいく」ことが大切。

など

・吉田氏と塚田氏による意見交換

・できること、やりきれないこともある中で、今出来ることを少しでも考えて行きたいと思いました。

・漠然と支援を考えるのではなく、何の目的で動くのか、優先順位はどうかを見極めながら方向性を考えていくことが必要。

・何ができるのかまだ分からないことだらけだと改めて実感。

・二次避難所の課題、実際どう動くか不安になる部分も多いですが、でも課題の洗い出しにはなったと思います。

など

・取り組みの具体的アイデア

・各関係機関、地域を含めた顔のみえる関係作り。
・発災時の対応について今後具体的に協議していく必要がある。
・最初から大きなシステムを作ろうとするのではなく、まずは区毎、または中学校区のようなおもう少し小さなエリアのレベルからシステムを考えていくことも必要ではないか。
・日頃より地域の支援機関が繋がっていることが有事の際に活きると思いました。
・意見交換等何かしら今できることを実際に行ってみることが急務だと思います。

など

今後の取り組みについて

・第２回については、いただいた数多くの意見から、今後川崎市としても防災や災害時の相談支援について考えていく必要があるという認識から、ＳＷＯＴ分析を行い、課題整理を行った。

→浮かび上がった課題をリストアップし、各相談支援センターでできることから取り組んでいく。そのためのリスト作成とモニタリングに取り組むワーキンググループを設置していく（平成２９年度～）。